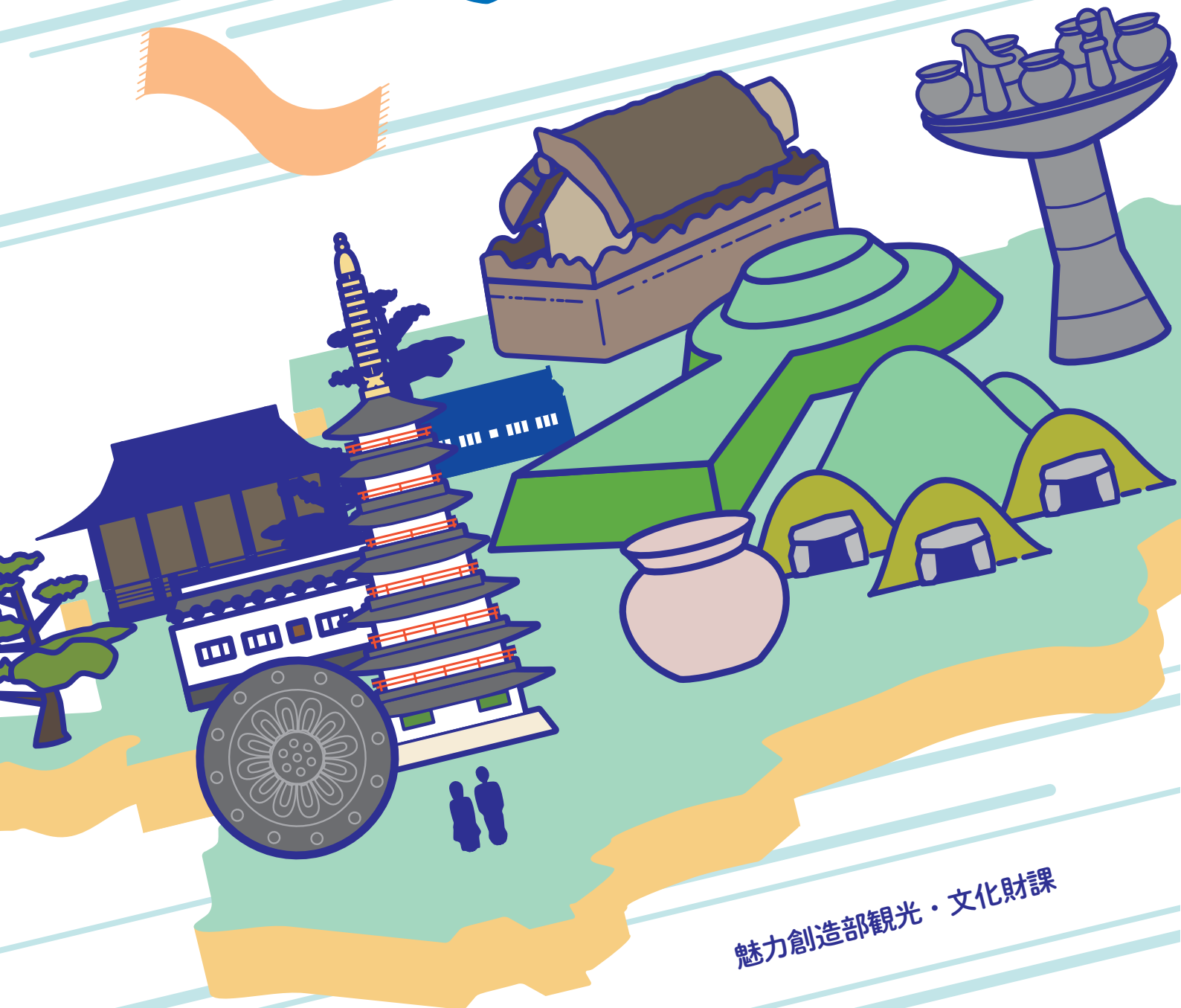


八尾市 文化財保存活用地域計画

概要版



魅力創造部観光・文化財課

歴史資産を将来にわたって着実に保存・継承し
歴史資産を活かした魅力あるまちづくりを進めるために

八尾市文化財保存活用地域計画を策定しました

文化財保存活用地域計画とは？ 文化財の保存を計画的に進め、歴史資産を魅力ある地域のまちづくりに活用するための基本的なマスタープランでありアクション・プランとなる計画で、平成31年4月1日から施行された文化財保護法の一部改正により位置づけられました。

計画期間 文化財の保存・活用の担い手を増やすためには、文化財に関心がない人々と価値や魅力を共有し、確実な継承につなげていく必要があります。そこで、市民・地域・行政などが自らまたは協力・連携して将来にわたって着実に保存・継承し、歴史資産を活かした魅力あるまちづくりを進めることを目的として「八尾市文化財保存活用地域計画」を策定しました。

計画期間は令和4（2022）年度から令和10（2028）年度までの7年間です。

文化財保存・継承の現状 文化財は、地域の歴史や文化の理解に欠かせないものとして、人々の営みの中で連綿と受け継がれており、文化財の本質的な価値を理解し、共有して後世に残すことが私達が担うべき重要な役割です。

課題①

過疎化や少子高齢化によって文化財を継承する担い手が不足し、滅失や散逸している。

課題②

異常気象や令和元（2019）年から大流行している新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が、祭礼などの行事の継承を妨げている。

本計画で扱う「文化財」と「歴史資産」について

文化財(文化財保護法に定める6類型)と、それに関連する埋蔵文化財や文化財を保存する技術のほか、伝承や説話は八尾を形作るものであり、八尾らしさを表すものを「歴史資産」と定義します。



これらを活用し情報発信を行うことで、地域の活性化や郷土愛の醸成等につながるなど、さまざまな恩恵をもたらします。歴史資産には国、大阪府、八尾市により指定等を受けているものだけでなく未指定文化財も含まれます。

八尾市内の 歴史資産の状況

八尾市は、埋蔵文化財包蔵地が市域の7割近くを占め、3つの国指定史跡(心合寺山古墳・高安千塚古墳群・由義寺跡)があります。山ろく部には、大小の古墳や瓦窯跡などが残されており、平野部には3つの寺内町がつけられました。社寺や古民家も多く、古文書や美術工芸品などが伝えられ、地域の民俗行事も人々のつながりの中で守り育まれてきました。

八尾市には、指定等文化財が127件、未指定文化財が3,737件あります。(令和4(2022)年3月時点)

建造物



環山楼(市指定)

美術工芸品



中田古墳出土埴輪(市指定)

史跡



心合寺山古墳(国指定)

有形民俗文化財



生駒十三峠の十三塚(民俗文化財)

無形民俗文化財



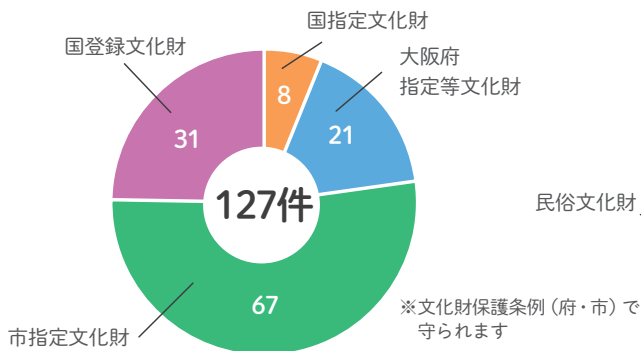
常光寺地藏盆踊り

遺跡

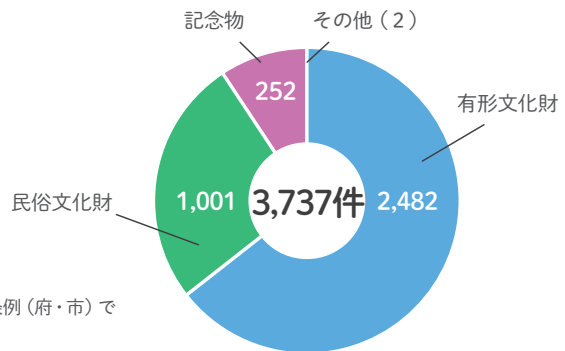


恩智城(未指定)

指定等文化財*の状況



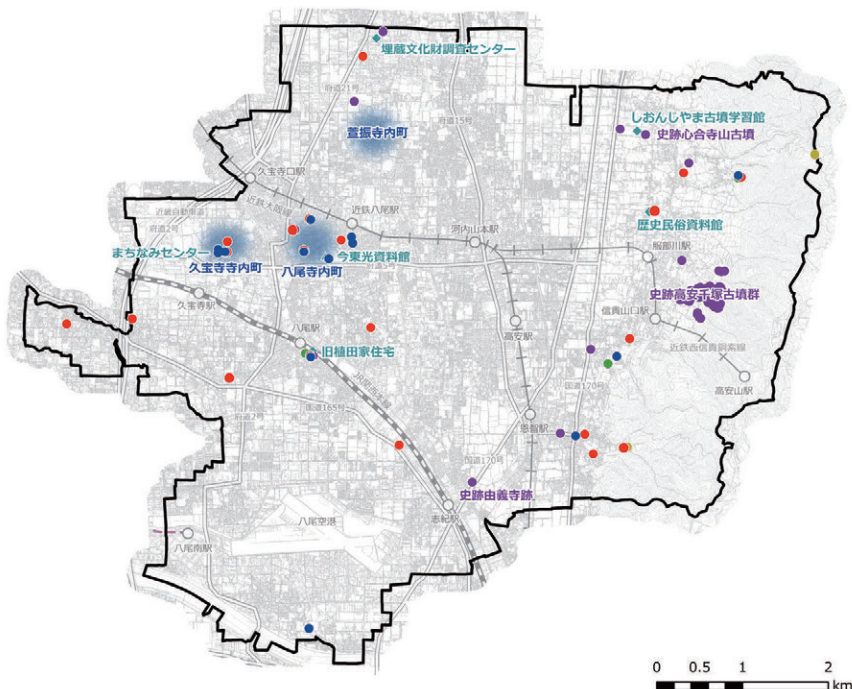
未指定文化財の状況



指定等文化財の分布状況

《指定等文化財》

- 建造物
- 美術工芸品
- 民俗文化財
- 史跡
- 天然記念物
- ◆ 文化財施設
- ▲ 歴史資産関連施設



0 0.5 1 2 km

八尾の歴史文化の特徴

八尾市の自然や地理的な環境のもと、長い歴史のなかで文化財や埋蔵文化財、伝承、説話等、様々な歴史資産が生まれました。これら「歴史資産」が相互に関係し合ったものを「歴史文化」と呼んでいます。

八尾市域では、生駒山系や大和川等の自然的環境や古代の都に近い地理的環境等を背景として、古墳群の形成や由義寺の創建、寺内町の成立など様々な歴史的事象が発生しました。そして、これらの歴史的事象から生まれた遺跡や建造物等の歴史資産が、本市の歴史文化を形成しています。

特徴1「心合寺山古墳や高安千塚古墳群等の古墳と埋蔵文化財」

市域の7割近くが埋蔵文化財包蔵地で多くの遺跡があります。高安山ろくには史跡心合寺山古墳を含む大竹・楽音寺古墳群や横穴式石室を主体とする史跡高安千塚古墳群が築かれ、ヤマト王権との関係がうかがわれ、古墳時代の河内の成り立ちを考えるうえで重要です。

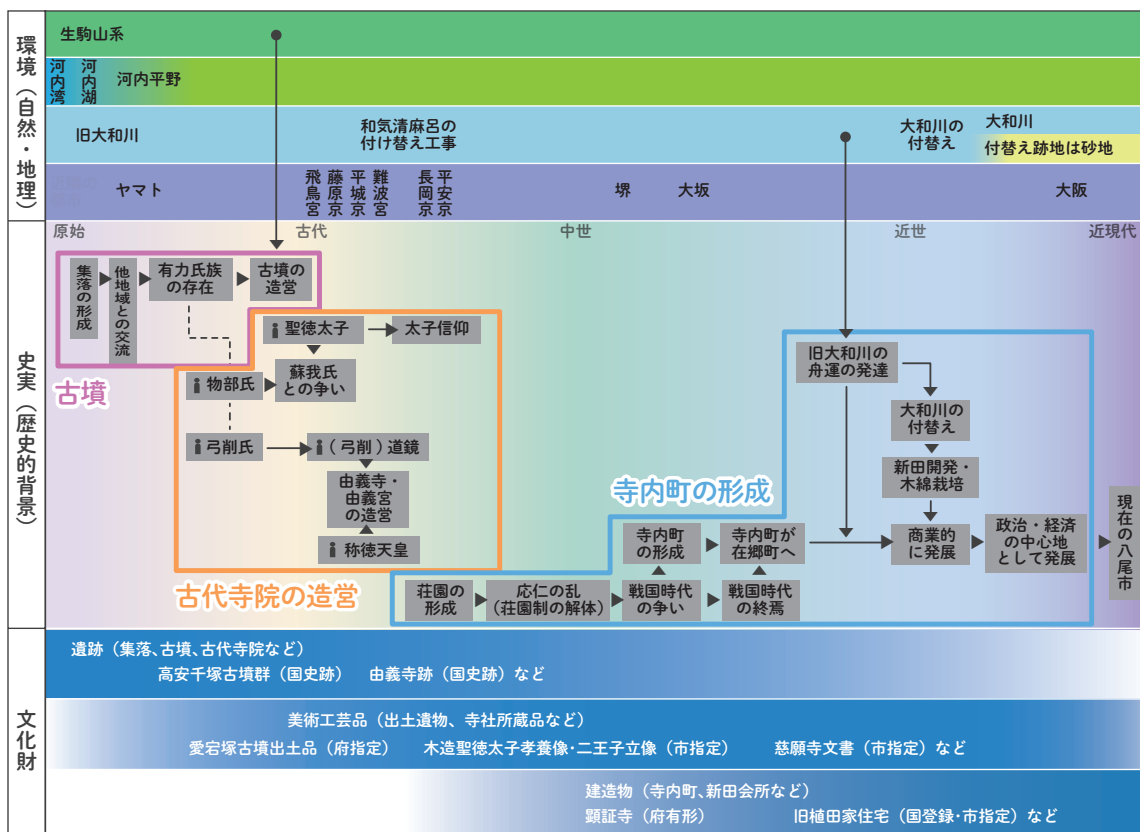
特徴2「物部守屋、弓削道鏡と寺院の建立」

八尾市域では、聖徳太子、蘇我馬子と物部守屋による崇仏戦争がありました。また、平成29(2017)年には、称徳天皇と道鏡ゆかりの由義寺跡が発見されました。由義寺建立と崇仏戦争は、国家の仏教施策の分岐点であると同時に本市の歴史にもかかわっています。

特徴3「大和川の付替えと交通網の発達による寺内町の発展」

中世に成立した寺内町は、近世になると経済活動や学問が盛んになり、都市的景観を備えた在郷町として発展しました。それを支えたのは、旧大和川付け替えにより生産が拡大した河内木綿と交通網の発達による販路の拡大で、木綿生産は近代まで主要な産業でした。

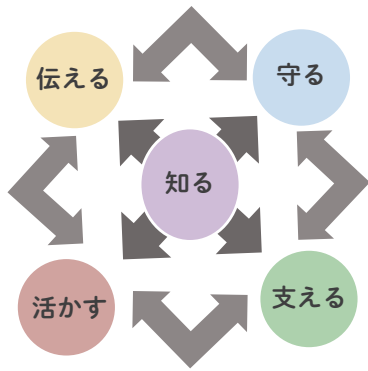
歴史資産に関わる主な文化財等の簡易関係図



歴史資産の保存・活用に向けた基本理念・方針

基本理念

歴史資産を活かして拓く わがまちの未来 ～知り・守り・活かし・伝え、次世代に繋げる～



歴史資産の循環モデル

歴史資産を保存・継承していくためには、地域にとって大切に守るべき存在であると認識してもらうことが重要です。歴史資産を「知る」ことによって、「守り」残していきたい、「活用」して地域を盛り上げたい、多くの人に伝えたい、支えていきたいという考えが芽生えます。この循環を持続させることで歴史資産の確実な継承に繋げることができます。

歴史資産は、「調査・研究」が行われることで、把握と価値についての追究が進みます。しかし、歴史資産の存在や価値が分かっても、保存・継承や整備・活用、発信、活動支援・体制整備がされなければ、地域の魅力あるまちづくりに十分生かされないため、「保存・継承」、「整備・活用」、「発信」、「活動支援・体制整備」を相互に関係させながら進めます。

基本方針

方向性

市域全体

	①知る 調査・研究
	②守る 保存・継承
	③活かす 整備・活用
	④伝える 発信
	⑤支える 活動支援 体制整備

歴史資産の把握調査 史資料の適切な管理 歴史資産の調査研究の継続	
文化財の指定等の推進 史跡等の公有化 歴史資産の維持管理と保存修理 埋蔵文化財の保護	未指定文化財等の継承 歴史資産の保存・活用に係る施設整備 防災・防犯に関する体制・設備の整備
史跡の整備 周辺環境・景観の保全・整備 見学環境の整備	アクセス環境の整備 学びの場の充実化 歴史資産を活かした観光振興の推進
関連文化財群の設定と活用 コンテンツ・ツールの充実	テーマ・ストーリー等を活かした歴史資産の効果的なプロモーションの推進 他自治体等と連携した取り組みの推進
地域による歴史資産の保存・活用の環境の整備 行政による歴史資産の保存・活用体制の整備	

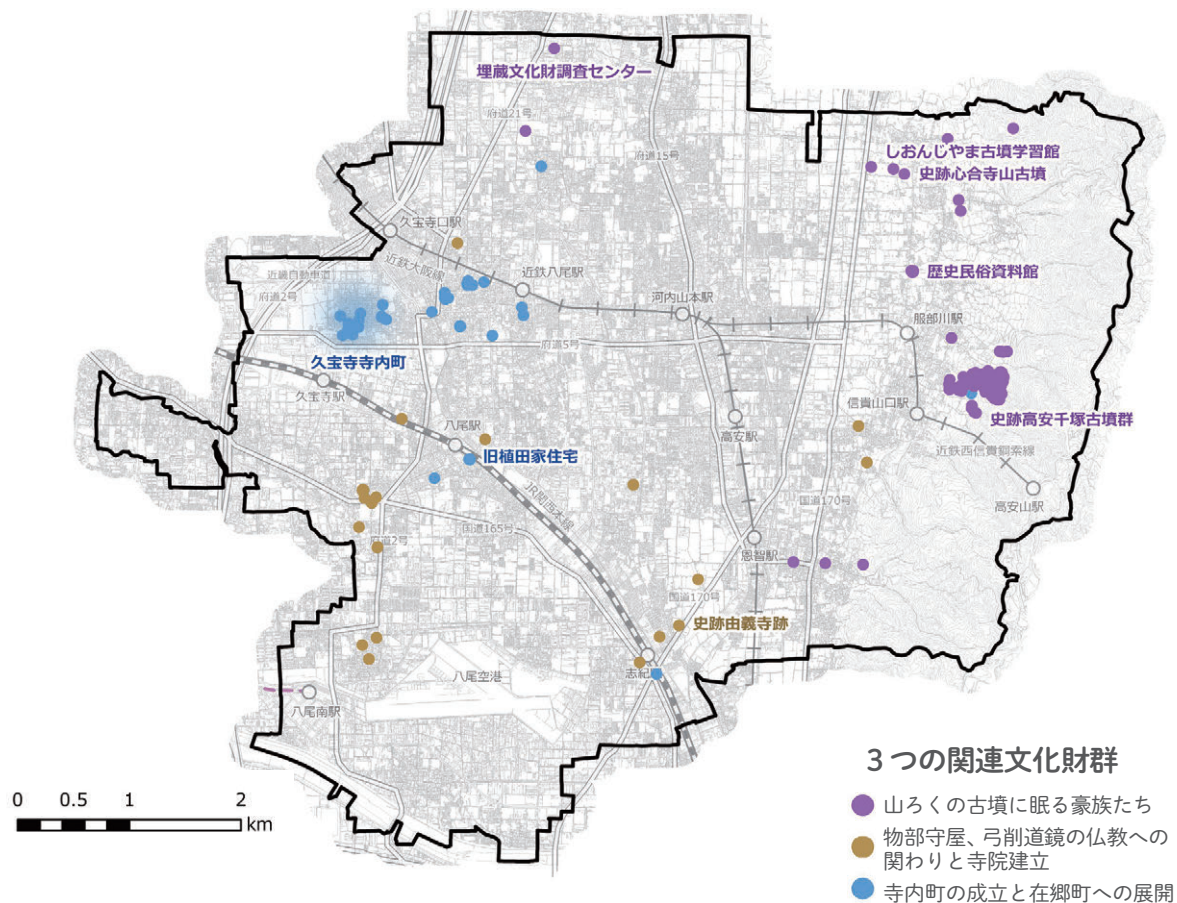
関連文化財群

関連文化財群 全体の課題	関連文化財群のプロモーション推進や周遊性を高める情報発信
山ろく古墳に眠る豪族たち	国指定史跡高安千塚古墳群をはじめとする山ろくの史跡の保存や周辺環境の整備
物部守屋、弓削道鏡の仏教への関わりと寺院の建立	国指定史跡由義寺跡及び周辺環境の整備・活用
寺内町の成立と在郷町への展開	寺内町等の歴史的景観の保全と情報発信

効果的な発信のために 関連文化財群の設定

八尾市の歴史資産の理解促進と価値づけ、その一体的な保存・活用を進めていくためには特定のテーマ・ストーリーのもとでまとまりとして捉えた「関連文化財群」として発信することが効果的です。

「関連文化財群」は、地域に固有の風土や歴史文化の特徴と一体となった歴史資産を把握でき、地域のアイデンティティとしての歴史資産の価値をより多くの人々に伝えることができます。



八尾市域と高安山(生駒山地)

歴史資産を保存・活用していくために… 3つの特徴に着目したストーリーを紹介



山ろくの前古墳に眠る豪族たち



八尾は、弥生時代から旧大和川がもたらす豊かな水と肥沃な土壌によって多くの集落が形成されました。古墳時代には海上交通の玄関口としてヤマト王権との深い関係を持ち、時には戦いの先駆けとなる武人や、朝鮮半島から来た渡来人たちを治めた有力氏族が、この地で活躍しました。



北・中河内最大の
前方後円墳です

心合寺山古墳(国指定史跡)



物部守屋、弓削道鏡の仏教への関わりと寺院の建立



八尾では、神を祀る物部氏と仏教を受入れようとする蘇我氏の対立において蘇我馬子と聖徳太子が勝利したことで、本格的な寺院づくりが始まり、中河内で最も古い寺院である洪川廃寺が建てられました。物部氏との戦いから約200年後、称徳天皇(孝謙天皇)が、弓削に由義寺と由義宮を造営したのも、重用する道鏡の故地であり、聖徳太子による仏教興隆の地との意識があったと考えられています。しかし、称徳天皇が亡くなると造営は中止され、新たに平安仏教が登場し、天皇を頂点とする国家仏教は終わりを迎えます。



長い間“幻の寺”と
言われていました

由義寺 塔基壇跡



寺内町の成立と在郷町への展開



室町時代、本願寺を中心に勢力を伸ばし領主的地位を有すると、守護大名や他の宗派との対立がさらに深まり、門徒たちは自衛のために堀と土塁で囲った寺内町を形成するようになりました。

寺内町は交通の要地に建設され、税金の免除などにより商工業者を中心に人々が集まりました。旧大和川の付け替えにより旧の川筋は新田として綿木が栽培され、寺内町の商家によって各地に運ばれました。能謡曲や俳諧などの文芸に親しむ人が増え、学問への関心も深まり、八尾寺内には、講習の場である環山楼が設けられるなど、中河内の政治や経済の中心として現在の八尾市に繋がっていきます。



歴史的なまちなみが残る
八尾の原風景のひとつ

久宝寺寺内町のまちなみ

歴史資産を活かして拓くわがまちの未来の実現に向けた 各主体の効果的な取り組み

各主体が以下のような取り組みを進めることが効果的です。

市民



八尾市の歴史資産について学ぶ
など

地域



伝統文化や民俗行事の
継承活動
など

文化財所有者



所有する文化財を適切に
保存管理する
など

事業者



関連文化財群にまつわる
イベントを企画する
など

教育者*



歴史資産を活かした
ふるさと教育を行う
など

指定管理者



施設の利便性向上を図り
多様な活用を進める
など

行政



歴史資産の価値・魅力の
情報発信等を行う
など

※主体者「教育者」：本計画では様々な教育機会に携わる人や機関を言う。



令和4年度文化庁文化芸術振興費補助金



計画の全文は八尾市公式ホームページに
掲載しています。

八尾市 文化財保存活用

八尾市文化財保存活用地域計画 概要版

発行日：令和4年7月発行

発行者：八尾市魅力創造部 観光・文化財課

〒581-0003 大阪府八尾市本町一丁目1番1号

TEL 072-924-8555 FAX 072-924-3995

刊行物番号 R4-68